

設立趣旨書

フィルムアーカイブ活動（映画フィルムの収集・保存・公開）を行う日本国内の主たる機関としては、国立の「国立映画アーカイブ」、地方自治体が運営する「広島市映像文化ライブラリー」「京都府京都文化博物館」「川崎市市民ミュージアム」「福岡市総合図書館」などがあります。しかしながら、法定納入制度のような仕組みがない映画フィルムの保存と収集は、映画会社の方針や社会情勢に左右される部分が大きく課題は多く残っています。その一方で愛好家の収集により失われることをまぬがれたフィルムも多く、その価値が認められつつあります。

「神戸映画資料館」は、まさにそういう個人の収集活動から始まったものです。その時代の評価や人気にとらわれずに収集してきたことにより、忘れられていた作品や軽視されてきたジャンルの映画なども保存されてきました。それが現在、失われていたと思われていた幻の映画を多数発掘することにつながっています。

1974年、わたしは映画好きの仲間とサークル団体「プラネット映画資料図書館」を大阪に設立しました。それから数十年にわたって多数の映画フィルム、書籍、パンフレット、ポスター、機材など、映画に関するあらゆる種類の資料を集めてきました。しかし、所蔵資料が質量ともに充実するにつれ、収蔵する場所の確保や、資料の整理が追いつかなくなっていました。そのような状態であったころ、神戸・新長田において、われわれの映画資料をもとにした文化施設づくりが、兵庫県と神戸市の協力を得て進展し、2007年3月に「神戸映画資料館」が開館するに至りました。立ち上げ初期は「新長田まちづくり株式会社」が「兵庫県商店街活性化事業」を活用する事業主体となり、わたしが代表をつとめる「神戸プラネット」が運営委託を受け、その後2009年からは「神戸プラネット」の独立採算事業として運営をしてきました。

2014年には「一般社団法人神戸映画保存ネットワーク」を設立し、文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野支援事業」のもと、これまで立ち後れていたフィルムの網羅的な調査が始まりました。ようやく調査研究を行えるようになりましたが、土台である神戸映画資料館の運営は脆弱なまま、有志の個々人の献身に頼らざるを得ない状態です。近年、映像分野だけに限らず、アーカイブの重要性の認識が高まっていますが、アーカイブとは文化を未来に繋ぐためのものであり、長期的な視点と運用が不可欠です。

フィルムアーカイブという公共性の高い活動を今後も継続して行うためにはNPO法人化が最良の策であると考え、これを機に、神戸映画資料館を運営する任意団体「神戸プラネット」とその調査部門である「一般社団法人神戸映画保存ネットワーク」を一体化したいと考えます。活動の全体を市民に知ってもらうことで理解と協力、参画を促し、柔軟性のある「市民参加型フィルムアーカイブ」をともに作っていきたいと考えています。

2019年9月10日

特定非営利活動法人 プラネット映画保存ネットワーク
設立代表者 安井喜雄